

歯髄生物学入門（石井信之）

Intoroduction to Pulp Biology (Nobuyuki Tani-Ishii)

キーワード

- ① 口腔統合医療学
- ② 歯髄生物学
- ③ 歯髄の構造と機能・歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患
- ④ 硬組織疾患と骨吸収
- ⑤ マイクロスコープによる歯内療法

授業概要

歯髄生物学は象牙質歯髄複合体と周囲組織の構造、機能、および病態を解析する学問であり、これを通じて歯および歯周組織疾患への臨床研究的アプローチを提供することを目的とする。また、歯髄は解剖組織学的に周囲を象牙質に囲まれた結合組織であるが、発生学的、組織学的、および機能的に密接に関連することから象牙質歯髄複合体という概念が必要な組織である。歯髄生物学入門では、生体組織としての歯髄の基礎知識と理解のための講義を行い指導する。

授業科目の学修目標

歯髄生物学は歯髄炎と根尖性歯周炎の発症に極めて重要であり、疾患の発生メカニズムや病態の免疫組織学的進展の解明と同時に、疾患の治療法を包括する基礎—臨床一体の学問であり、本科目では大学院レベルにおいて必要な知識を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 歯髄生物学の意義と病理診断学の基本
 - ・歯髄生物学の歴史と研究技術の進展 2コマ 石井信之
 - ・歯内療法診断学の基本 8コマ 石井信之
- ② 日本歯科保存学会における倫理規範と患者の取り扱い方の基本 4コマ 石井信之
- ③ 歯髄生物学的研究論
 - ・歯髄および根尖歯周組織の免疫学的発症と進展 4コマ 石井信之
 - ・細菌感染と根尖性歯周組織炎 2コマ 石井信之
 - ・破骨細胞と根尖性歯周炎 4コマ 石井信之
 - ・樹状細胞と象牙質再生 4コマ 石井信之
 - ・最新歯内療法理論と実践 2コマ 石井信之

教科書および参考書

Journal of Endodontics, International Journal of Endodontics

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

歯髄生物学的研究論では授業項目と環境病理学分野で発表された関連する論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 歯髄生物学の意義を理解し病理診断学の基本を説明できる。
- ② 歯髄生物学研究領域における倫理規範を理解し応用することができる。
- ③ 歯髄生物学的研究論を理解し臨床に実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	30%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回40%
- ・レポートは、歯髄生物学的研究論の5項目について課題を提出する。6%×5回=30%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

歯髄生物学入門の理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。